

# 俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十六回を開催する事ができました。現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。



平成 28 年 1 月 25 日「喜久屋 駒井」にて

## 第百八十六回 平成二十八年一月二十五日(月)

兼題 「初句会」「鏡餅」「雪晴」「粕汁」  
句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

- 酒に目が兼題無視の初句会 宮本
- 洋風のおせち料理がはばきかせ 佐伯
- ◇ 老妻と重ねし年にかがみ餅 紫峰
- 玄閑にとつかり座る鏡餅 野一
- 人生を重ねて嬉しかがみ餅 紫峰
- 初句会おちよこ片手に想を練る 巽
- 粕汁や湯気の向こうに妻の愛 進藤
- 初弘法外人客が買う古着 陵南
- 束の間か雪晴れの間空の青 野一
- 鏡餅醍醐で争う怪力を 巽
- 初句会みんなの笑顔のそろい踏み 進藤
- やれうれし句友と御神酒と初句会 紫峰

粕汁のお代わり重ねほろ酔いに

巽

初句会頭ひねるあと一句

桜井

雪晴れてしろきまぶしさを閉じる

宮本

賀茂川が右窓に見え初句会

野一

初場所の清めの塩が高く舞い

陵南

床の間の樹脂でできたる鏡餅

進藤

粕汁の湯気の向こうに赤い顔

桜井

粕汁の美味さほろ酔う母の味

野一

リフォームし飾る場所なし鏡餅

宮本

雪晴の比叡を望む京の街

巽

雪晴や散歩の景色が二割増し

進藤

鴨川に友の笑顔と初句会

紫峰

◇…最多得票句を示しています。



追記

世話人 山科爽風が忙しきにかまけ、昨年は一度しか句会を開催できませんでした。会員皆様には誠に申し訳ございません。今年はせめて三度ばかり開催できるように、そして楽しい句会になりますよう、小野代表世話人様のご指導の下、努力致します。

吟行、句坐では先輩や他の会員がわかりやすく、時に厳しく論評して下さいます。句坐はいつも笑い声が絶えません。初めての方でもすぐに打ち解け、回を追う度に上達が実感できます。とてもいい頭の体操です。

俳句はちよつと難しいかなと思つているあなたも、是非ご入会下さい。

評よりも 票の気になる 初句会 (爽風)

※凡人の心境を読みました。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

(株)オリヂナル電設

三和電気工業(株)

(株)昭和電工社

東邦電気産業(株)

(株)日本電気

宮本電気工事(株)

山科電気工事(株)

石崎 一郎 (陵南)

小野 俊一 (野二)

進藤 久和

佐伯 希彦

松井 章 (紫峰)

宮本 みつへ

山科 隆雄 (爽風)

特別参加

三木 一義 (窓外)

投句

巽 信吾 (事務局)

桜井 舞子 (事務局)

元職員

元職員

平成二十九年二月

協会広報誌 第六十三号掲載



平成29年9月25日「南禅寺 菊水」にて

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十八回を開催する事ができました。現在会員七名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第百八十七回 平成二十九年三月六日(月)

兼題 「初句会」「余寒」「梅見(観梅)」

「雪囲い」「春眠」

句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

◇ 梅香る情緒消し去る外国語

爽風

マフラーを手離しかねる余寒かな

陵南

春眠や二度の夢見に浸りけり

野一

鴨川に並ぶ姿に余寒なし

桜井

いそいそと余生を貫ひて初句会

陵南

人気なき庭に紅梅三分咲き

陵南

いぎなうは電車の揺れか春眠か

桜井

余寒の頃熱爛かさねて過ぎゆく

佐伯

雪囲い薫の香りに増すぬくみ

野一

墓参り誰がたむけた梅一輪

佐伯

明けてより心待ちにし初句会

紫峰

二人して陽だまりを行く梅の道

爽風

雪囲い背中合わせの獣道

宮本

喜寿の友駄句誉め合うか初句会

野一

嚴寒を健気に耐えし梅見かな

紫峰

よき友と美酒を楽しむ初句会

巽

春眠と言ひ訳けしてはフトン中

宮本

余寒にも確かな動き朝の峽

野一

寒梅のほのかな香り鳥集う

巽

加茂の辺に久しき句友と初句会

紫峰

花の下寒さこらえて梅見酒

宮本

杖つきつ公園の道梅ひらく

陵南

◇ 投句して思いを馳せる初句会

桜井

◇ 辛口の先輩逝きて初句会

爽風

◇…最多得票句を示しています。

第百八十八回 平成二十九年九月二十五日(月)

兼題 「菊」「蟬」「門」「旅」  
句座 「南禅寺 菊水」 京都市左京区南禅寺福地町

兼題句

朝市の花屋に菊の勢揃い 爽風  
 門灯の消えてくつきり星月夜 陵南  
 旅をする枯葉一枚ボンネット 宮本  
 塩飴をリュックにつめて夏の旅 巽  
 ありし日の父母に供える菊の花 進藤  
 枚パーおきな思い出菊人形 野一  
 南天の枝にはつく蟬の殻 宮本  
 絶景の三門つつむ青紅葉 巽  
 門札をおおいかくしてしだれ萩 陵南  
 旅路にて秋刀魚のけむり霞む里 桜井  
 命ある限り尽くさん蟬時雨 紫峰

ウォーキングビジーエムは虫の声 進藤

◇ 踏みかけてそっと手に取る蟬の殻 巽

コスプレをネットで探す秋祭り 進藤

パンフ見て尾瀬の涼風盗みおり 爽風

地藏さん孫と一緒に野菊活け 巽

門を開け夜露に光るくも糸 宮本

ふるさとの畦道染める彼岸花 巽

南禅寺末広がりの秋句会 陵南

無住寺かぼそき秋桜迎えおり コスモス 爽風

旅支度宵から手間を家の神 野一

◇ 盗み聴く鈴虫たちの一門会 桜井

菊の香を移し苔むす石畳 紫峰

◇：最多得票句を示しています。

追記

昨年の二月、同好会の長老 三木一義(元 京都府電気工事工業組合 専務理事)が逝かれた。俳号は「窓外」と称された。

吟行や句座では辛口の論評が飛び出し、それを聞くのが私の密かな楽しみでもあった。

窓外作「人去るも動かぬ二人朧月」や「花篝光芒闇を深くせり」などは色気があり大好きな句である。一方で「大あくび窓に映りし夜長面」はまた何ともユーモラスな句ではないか。私の今号掲載の句「辛口の先輩逝きて初句会」は窓外先輩を偲んだものである。もう一句窓外作「政局はいかにと枝豆追加せり」。今は天国で枝豆とお酒を楽しみながら、下界の句会に辛口の論評を加えて頂いていることであろう。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

㈱オリヂナル電設 石崎 一郎(陵南)

三和電気工業(株) 小野 俊一(野一)

㈱昭和電工社 進藤 久和

東邦電気産業(株) 佐伯 希彦

㈱日本電気 松井 章 (紫峰)

宮本電気工事(株) 宮本 みつへ

山科電気工事(株) 山科 隆雄(爽風)

投句

巽 信吾(元 職員)

桜井 舞子(元 職員)

平成30年7月2日 第190回例会



平成30年11月26日 第191回例会

# 俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百九十一回を開催する事ができました。現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

## 第百八十九回 平成三十年一月二十九日(月)

兼題 「松の内」「寒波」「節分」「三が日」  
句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

妻癒えよ願いをこめて豆を撒く 陵南

◇ 節分に福願うこと百万遍 桜井

三が日俳句三昧過ごしけり 陵南

◇ 節分の豆あてにして酔ひにけり 野一

◇ 故郷のなまり懐かし三が日 桜井

◇ 料亭に負けじ劣らじ妻の節 爽風

三が日過ぎし静けさ戻る居間 野一

◇ 節分のおばけで学ぶ流りかな 進藤

◇ 寒波来し頭沁みある帽子付け 野一

◇ 寒波をも何するものぞ受験生 巽

◇ 松の内師走以上のせわしなさ 進藤

節分は老いも若きもまるかじり 巽

そろそろと寒波の朝に扉開け 紫峰

◇ ひさびさに娘の酌で雑煮かな 爽風

◇ 熱爛に浸りし笑顔三が日 紫峰

## 第百九十回 平成三十年七月二日(月)

兼題 「雪解け」「新人」「新緑」「蝸牛」  
句座 「佳久」京都市中京区押小路通柳馬場西入

兼題句

凜としてバス待つ君にさくら舞う 山本

五月晴緑トンネル加茂の道 紫峰

桜より淡き頬紅初化粧 山本

◇ 新緑の香りに覆われ溪釣り師 野一

◇ かたつむり夕立去りのしのしと 山本

◇ 悠然と何も気にせぬ蝸牛 紫峰

葉一枚に濡れあと左右蝸牛 野一

額彩で出せぬ新緑目を休む 陵南

◇ 日に解けて母なる海へ旅立ちぬ 山本

日向ぼこ気付けばわれも猫背なり 陵南

雨あがりいずこに向う蝸牛 巽

梅雨蹴って西野ジャパンが猛暑呼び 爽風

新人の賞味期限や夏近し 進藤

庭石や雨にあらわれ蝸牛 進藤

新人と偽わり挨拶4月バカ 宮本

第百九十一回 平成三十年十一月二十六日(月)

兼題 「猛暑」「災害」「秋空」「収穫」

句座 「田ごと 本店」京都市下京区四条通河原町西入

兼題句

茜空山の錦と競りけり 山本

エアコンもスタミナ切れる猛暑かな 進藤

コンバイン塵舞い上がり秋空へ 野一

蝉しぐれ傘さす乙女濡らすけり 山本

朱黄色絵画連ねし東山 紫峰

蒼い空澄みきった空秋の空 野一

猛暑日は図書館行って涼をとる 信吾

◆ 暑すぎて児童等の歓声無き地藏盆 爽風

電気コンロまっかになって粟を焼き 佐伯

街路樹枝をおとされ秋日さす 佐伯

秋空に黒一点のトンビかな 宮本

災害に時間を取られて年の瀬や 宮本

災害のつめあとと深き秋の山 進藤

石畳そつと積りし紅天使 紫峰

今夕は庭の茗荷の収穫祭 爽風

美酒佳肴友と語らう夜長かな 信吾

◆…各回の最多得票句を示しています。◆…満票を示しています。

追記

俳句同好会の超ベテラン会員である石崎一郎(俳号・陵南)さんから嬉しいはがきを受け取った。「この句会発足第一回目からの生き残りは私一人となり、満九十二歳を無事過ぎて体力的にかなり衰えましたが、最後まで残ったのは俳句です。本を買い、新聞、テレビの俳句番組を見ている。今後とも投句しますのでよろしく。」俳句を一生の友としておられる方があり、世代を超えての心の交流がある。この同好会の醍醐味でもある。

昨年から北陵電工の山本氏が加わり賑やかさが戻ってきた。その上、舞鶴からも新会員が予定されている。益々楽しい吟行、句会を続けてゆこうと思う。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

- (株)オリヂナル電設 石崎 一郎 (陵南)
- 三和電気工業(株) 小野 俊一 (野一)
- (株)昭和電工社 進藤 久和
- 東邦電気産業(株) 佐伯 希彦
- (株)日本電気 松井 章 (紫峰)
- 北陵電工(株) 山本 利廣
- 宮本電気工事(株) 宮本 みつへ
- 山科電気工事(株) 山科 隆雄 (爽風)
- 巽 信吾
- (投句)事務局 元職員 桜井 舞子